

順応科研・2016年度報告

西城戸誠（法政大学人間環境学部）



2016年度にやったこと

- エフォート：学務60%、教育25%、実践10%、研究5%
 - （こんなに研究をしなかった年はないくらい、成果がありません。申し訳ありません）
- 実践
 - NPO法人埼玉広域避難者支援センター・代表理事
 - 生活クラブ生協神奈川・員外理事
 - →「学内政治に走るより、ずっといい」（by T先生）という言葉を励みに。「アクションリサーチ」的なことを、同時並行的に行う
- 研究・調査・成果（順応科研以外も含む）
 - 「若者が政治に関わる時」（シンポコメント→エッセイ（2017年3月刊行））
 - 石巻市北上町における市民による調査データの分析（セカンドオーサー）：全世帯の調査（2017年3月刊行）
 - 広域避難者支援、再生可能エネルギーと社会的受容性（学会報告）。
 - 再エネ出資者調査（実施中）、生活クラブエナジー（電力自由化した後の生活クラブ組合員への調査）（企画中）
 - 炭鉱主婦会に関わる調査、「聞き書き」の作成（もう少しで完成）、論考の執筆（鋭意、努力中）

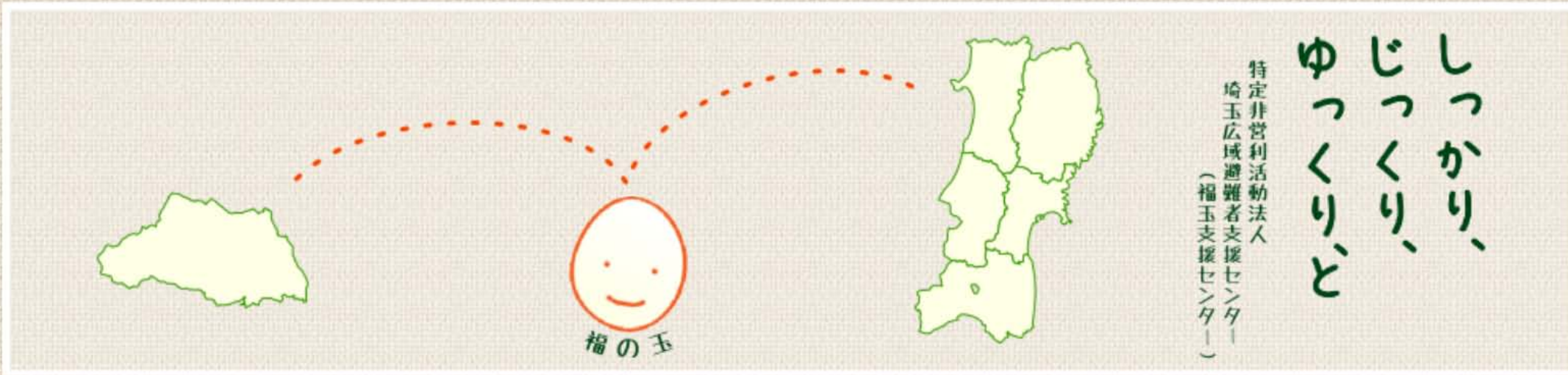




しっかり、じっくり、ゆっくり、と
福玉支援センター

TOP | センターについて | 福玉便り | 福玉便り 号外 | ぼろろん♪ | 福玉カレンダー | 福玉募金のお願い | お問い合わせ | リンク

埼玉県内に避難している人々が、避難元地域の状況や帰還・移住の選択を問わず、生活を再建し安心して暮らせる社会を目指しています。



検索

福玉募金のお願い

ご寄付頂いた方には、ご希望に応じて福玉便りを1年間ご郵送させていただきます。
福玉募金のお願いページより、送付先のお名前、ご住所をご連絡ください。

■送金先■

ゆうちょ銀行 〇二馬支店 普通 6616820

お知らせ

- 2017年1月27日** 【2/28】シンポジウム「震災から6年、広域避難者の生活と支援を考える～いま、埼玉の市民と行政にできること～」
- 2017年1月27日** 福玉便り マメをたべたべ2月号(通巻 第57号)
- 2016年12月17日** 福玉便り 酉は鳴いたか1月号(通巻 第56号)
- 2016年12月4日** 埼玉県NPO情報ステーション「NPOコパトンびん」で当センターの活動内容について紹介されています。



順応的ガバナンスの研究に対して

- 順応的ガバナンスの成立要件？の研究へ向けて
 - 形成プロセス（歴史的経緯）を記述
 - 「順応的ガバナンス」を機能させるローカル・ガバメント、地域／政治文化、制度との関係を探る
- 順応的ガバナンスを、制度化（ガバメント）させる／した事例研究、制度の中から、順応的なガバナンスをつくっていく「しくみ？」
 - → 制度の評価、政策論への接続
- on goingの事例を対象としているので、自らが「しくみ」をつくってみて、どうだったのか、という議論になる？
- 「規範」の提示をどのように行うのか？
 - 文化相対主義を超えて、制度・しくみ、合意形成を導く「規範」と、その提示の方法



テーマ1：津波被災地のコミュニティ再生

- 石巻市北上町における、高台移転後のコミュニティ形成
 - 従来の規範／きまりと、新しいコミュニティにおける規範の生成と、さまざまな「規制」との関連
 - 若い世代によるまちづくり団体と、コミュニティ形成との関連
 - きたかみインボルブによる調査のその後
- C.f. 「復興支援員」の制度設計（テーマ3（広域避難者支援）とも関連）
 - 復興支援員の定着、制度運用のあり方
- 学生引率によるフィールドスタディの継続
- 「次は学術的な研究を期待しています」（別のT先生）という声に対して



テーマ2: 再生可能エネルギーと地域社会のマネジメント・ガバナンス

- 再生可能エネルギーの事業展開と地域社会のマネジメント／ガバナンス
 - ローテクとハイテクによる環境保全や自然資源管理→再エネにおけるローテクとハイテクと、地域のまちづくり（経済的メリット、人的交流・・・） →Co-benefit(by 丸山)
 - →都市－農村関係、都市部－農村部の比較
- 秋田県にかほ市、山形県遊佐町
 - 生活クラブ風車、太陽光発電：エネルギーという材を中心とした「対等互恵」な関係の先進モデルを提示
 - 地域における隠れた共有地の資源管理（にかほ市）
- 宮城県丸森町：福島ではないが放射線被害、復興まちづくり・資源管理、再生可能エネルギー事業の展開（→子どもを抱えた復興支援員、現地に住まず、まちづくりを行う）



みやぎ復興応援隊

MIYAGI FUKKOU OSENTAI



復興応援隊・復興支援員の概要

各地の応援隊・支援員紹介

復興応援隊・支援員インタビュー

お問い合わせ

リンク集

Home ▶ 各地の応援隊・支援員紹介 ▶ 丸森町耕野地区復興支援員

丸森町耕野地区復興支援員



メンバー数/復興支援員1名
受入団体/耕野地区振興会
市町担当/丸森町

- ・ 主な活動内容
- ・ 若者交流会
- ・ 耕野の休耕地よみがえり
- ・ 耕野みまもりお便り隊



地元若者を巻き込んだ耕野の魅力発信

震災・放射能被害により落ち込んでいる地域の活性化のため、お活動、お年寄りの元気を広く伝える取り組み、若者が地域づくりをしています。不定期にイベントを開催し、地域の若者(20~40代)が集づくりや隣の地域との連携を図っています。今後も様々なイベントの育成を行っていきたくと思っています。

休耕地を活用し、大豆栽培・加工を通じて地元民と外部参加者どこれまで4回の開催で計27名参加があります。こちらは随時月に1~2回、単身高齢者世帯へ訪問し、家族へレポートをお送



ひっば電力株式会社

ひっば電力株式会社のロゴマークは、水と緑、風、ソーラーパネルをイメージしています。

会社案内
・会社概要
・企業理念

筆甫について

事業紹介

お知らせ

地域の復興とエネルギーの自給を目指して

宮城県の最南端、福島県との境に位置する丸森町筆甫(ひっば)地区は、面積の80%が森林といわれ、豊かな森林資源と水源に恵まれた里山です。しかし、平成23年の福島第一原子力発電所の事故の影響により、昔ながらの里山の暮らし、健康、そして経済的なあらゆる不安と困難を余儀なくされてきました。この地域に希望を取り戻し、未来につなげていきたい。そんな思いから地元有志が立ち上がり、事故からちょうど5年がたつ平成28年3月11日にひっば電力株式会社を設立しました。従来の化石燃料によるエネルギーへの依存から、地域資源を活用した循環型エネルギーへの転換をはかり、地域エネルギーの地産地消を目指します。



会津電力株式会社

飯舘電力



あいコーみやぎ



ひっば復興発電所についてはこちら

ひっば復興発電所1号が稼働しました！

廃校になった旧筆甫中学校校庭に太陽光発電設備を設置して売電、その収益を地域づくりに。そんな趣旨のもと平成28年4月より応援資金の支援の呼びかけが始まり、59名の方々にご支援をいただき165Wのパネル216枚、システム容量57.2kWの設備を設置することができました。

初秋の日差しのもと、9月中旬より稼働がはじまりました。発電された電気はすべて東北電力へ売電され、その収益は筆甫地区の地域の復興や福祉事業などに活かされます。

トピック

ひっば復興発電所1号 完成記念式

旧筆甫中学校校庭に設置された太陽光発電所、ひっば復興発電所1号が完成し、発電がはじまったことをうけて10月9日に来賓の方々、関係者、ご支援いただいたみなさまをお迎えして完成記念式が行われました。当日は環境エネルギー政策研究所所長の飯田哲也さんをお迎えしての記念講演、祝賀会ではみなさまとの交流もすすみ、盛会に終る事ができました！



ひっば復興発電所1号 パネル設置イベント開催！

たくさんの方々の応援資金をもとに、ひっば復興発電所1号が設置されました！ひっば電力関係者と地域住民の方々の協力により架台の設置が進められ、7月31日には地域内外よりたくさんの方々に参加していただき、パネル設置イベントが行われました。当日はパネル裏面メッセージを書きこんだり、子供たちはカブトムシ捕りに熱中するなど賑やかな1日となりました。ひっば復興発電所1号は9月中旬より稼働予定です！



シンポジウム「自然エネルギーで地域を変える」

4月2日、エネシフみやぎ主催によるシンポジウム、「自然エネルギーで地域を変える」に参加させていただきました！

たくさんの方々の参加を前に、筆甫のこと、原発事故から会社設立に至る経緯など紹介させていただきました。

宮城県中と福島県の市民発電関係者も一堂に集いこれまでの活動



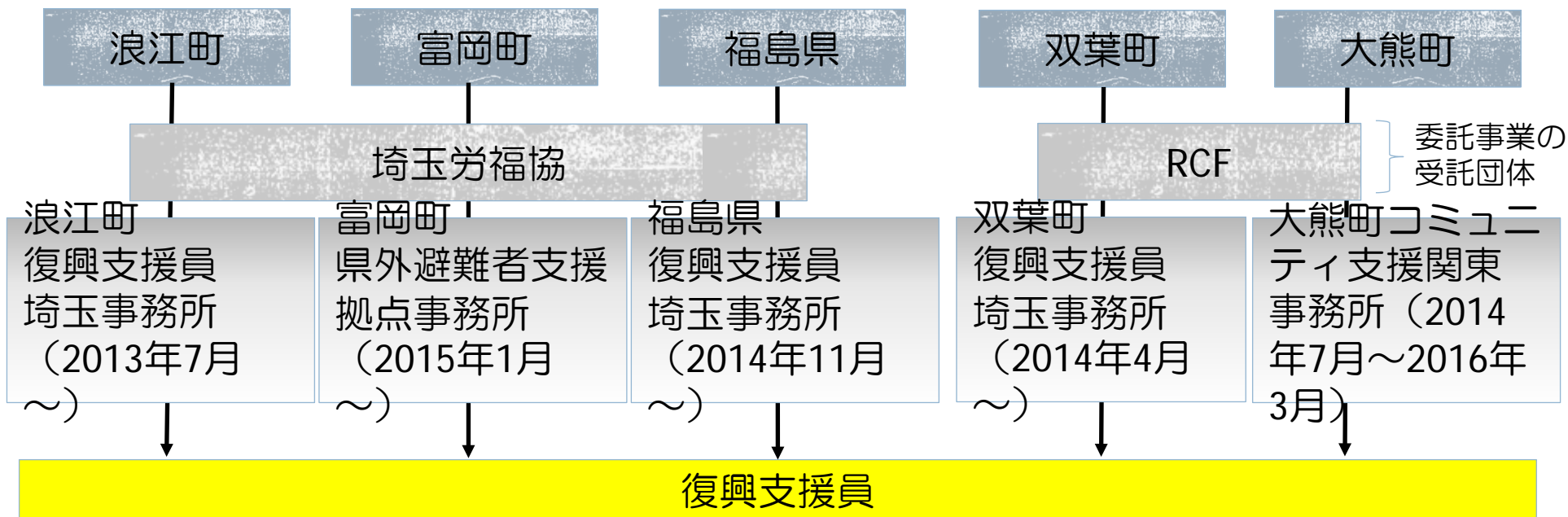
テーマ3：広域避難者への「支援」と「制度」

- 復興支援員／地域支援員制度、民間の支援団体の付置連関からみる、広域避難者支援の順応的なガバナンス
 - 広域避難者支援を、「順応的なプロセスマネジメント」という観点から整理したときに、既存の制度や支援のあり方（現状、課題）を捉える。
 - 国、福島県の施策（強制帰還政策）に対する広域避難者の戸惑い、絶望。自治体の無力さ
 - 広域避難者支援団体・アクターの付置連関：予算を持つ団体自体の問題
 - 多様な被害に対する多様な支援を担保することの難しさ。現状の制度の中で何をやっていくべきか、動きながら記述。震災直後からの支援のプロセスを評価しつつ、その後の展開を考える。



埼玉県における復興支援員制度

- ・ 浪江町の復興支援員導入後、他の3町と福島県も導入（ただし、目的は異なる）
- ・ 福島県と双葉4町の事務所が揃う、唯一の地域（～2015年度末）



- ・ 浪江町：全国を10のブロックに分けて復興支援員を配置し、埼玉・東京西部を埼玉事務所が担当
 - ・ 富岡町：埼玉事務所の支援員4名が全国の県外避難者を担当
 - ・ 福島県：県外避難者が多い8都県に復興支援員を配置
- ・ 双葉町：いわき市・郡山市・埼玉県（加須市）に事務所を置いて支援員を配置
 - ・ 大熊町：コミュニティ支援事務所をいわき市と埼玉県に開設して、支援員を配置（⇒2015年度末、埼玉事務所がいわき事務所に統合）

復興支援員事業の比較

復興支援員の対象	浪江、富岡、福島全体	双葉、大熊
受託団体	埼玉労福協	RCF
受託団体の震災以降の活動内容	埼玉県における県外避難者支援（物資の配給、情報提供、イベント開催）を実施 →社会的弱者に対する「社会運動」としての位置づけ	コミュニティ形成、情報発信の実施 →まちづくり系の「社会的企業」としての活動
復興支援員の活動内容	戸別訪問による見守り	同郷者のグループ、コミュニティ形成
復興支援員の属性	地元出身（当事者）	地元以外出身（支援者）
活動内容の課題	社会的弱者の発見と、その後の対応。 戸別訪問後の展望の難しさ。	同郷者のグループはできたが、社会的弱者の支援は別組織に依存 孤立している避難者へのアクセスが難しい。